

プロジェクト名：ジョージア州アトランタにおける新左翼と都市開発の関係についての基礎研究

プロジェクト代表者：宮田伊知郎

研究の目的

本研究は、ポスト公民権運動のアメリカ合衆国において、「公共」という概念のもとに、人種・民族的マイノリティ、白人貧困層、中産階級、ジェンダーの差異など、社会的バックグラウンドを異にする人々のあるべき関係がどのように模索され、どのように実践されていったのか、1965年に設立され71年の住民投票により操業開始が決定した公共交通機関アトランタ大都市圏交通局の形成過程を通してあきからにする調査の一部である。調査の大部分は、文科省科学研究費若手研究(B)のプロジェクト「ポスト公民権運動期の米国における公共交通網の形成と異人種・階級間関係の変化」において進められているが、その過程の中で反都市開発住民運動において新左翼が無視できない役割を果たしていたことがわかった。これまで白人中産階級層による高速道路建設反対運動や、黒人による高速鉄道建設反対運動/誘致活動に関しては、現地公文書館における史料やローカル新聞などを使用することにより分析を進めることができた。その一方で、大学生を中心とした若者層が担い手となり、反都市開発の住民運動を組織したが、この点に関しては史料の整理・分析共に進んでいなかった。この欠落部分を補完するのがこの研究のゴールであった。

研究の進め方

アトランタの新左翼が発行した新聞 *The Great Speckled Bird* のマイクロフィルムを電子化(PDF/OCR 加工)し、新左翼集団が公共交通網の形成にどのように関わったのか分析した。*The Great Speckled Bird* は、ジョージアと

いうきわめて保守的な土地柄のなかで発行された新左翼の新聞であり、ベトナム反戦運動、同性愛者の権利保護、反人種差別闘争を導いた若者の生きた声を伝える原資料である。電子化によりかれらの思想や行動を効率的かつ迅速に整理することが可能となった。

研究の成果

従来注目されてこなかった現代アメリカ南部の白人リベラルの活動の研究を深化させることができた。高速道路建設反対運動とシンクロして公共交通網形成キャンペーンは進んだが、どのように人種と階級を異にする人々がかかわったか示すことが大事な作業であった。*The Great Speckled Bird* の執筆陣はリベラルのなかでも左翼に位置しており、中道のリベラルをも保守と同列に並べ批判していた。このため、彼らの論考はいわゆる保守化に同調しない人々の持つ保守性を考察する上で貴重な資料であった。たとえば高速道路建設がストップした跡地利用において、公共交通網建設推進派がかつてのべていたような貧困層や人種マイノリティのための住宅を建設することが環境保護等を理由にうやむやになりつつあることを指摘していた。環境運動と階級のつながりをここに見出すことが出来た。こうした発見が多々あった。このリサーチの成果は、ジョージア大学歴史学研究科に提出した博士論文“‘Setting Atlanta in Motion’: The Making and Unmaking of Atlanta's ‘Public’ Transit, 1952-1981” (December 2010)の重要な一部となった。